

秋田大学

環境安全センター報

令和5年度

Environmental Research Center, Akita University

No.43

令和6年4月

秋田大学環境安全センター

目次

令和5年度活動実績

1. 「環境安全に関する講習会」の実施……………1
2. 地域貢献活動(「令和5年度「環境と安全のための講演会」の開催)……………4
3. 廃液の回収と処理……………6

1. 「環境安全に関する講習会」の実施

教職員・学生に対して化学物質等の管理徹底及び安全な取扱いの意識啓発を高めるために実施。

(1) 開催期間: 令和5年10月16日(月)～令和5年11月30日(木)

(2) 開催方式: WebClassによるオンライン開催

(3) 対象: 教職員及び学生

(4) 講習内容

分類	タイトル	講師
講習1	化学物質にかかる安全教育と廃棄薬品の取扱い	大学院理工学研究科 物質科学専攻 応用化学コース 教授 加藤 純雄
講習2	化学物質リスクアセスメント実施ツール CREATE SIMPLEを用いた評価方法	ビデオ視聴(30分)

(5) 受講状況

分類	タイトル	受講者数(名)
講習1	化学物質にかかる安全教育と廃棄薬品の取扱い	291
講習2	化学物質リスクアセスメント実施ツール CREATE SIMPLEを用いた評価方法	267
—	(参考) 講習1と講習2の両方を受講	260

(6) アンケート結果

アンケートについて174名から回答があり、本講習会に対する意見を以下に整理した。各設問に対する回答の集計結果は次ページのグラフ1を参照。

- ・内容全般に対しては好意的な意見が多かった。
- ・Web開催については時間制約がなく、繰り返し視聴できる利便性に対して高い評価であった。
- ・化学物質の危険性に対するリスクアセスメントや安全な取扱いの大切さについて考える契機となったという意見が多く、安全啓蒙の機会となった。
- ・保護具の取扱い、毒劇物の廃棄等に関する教育の要望もあった。受講対象を四年生以外の学生や文系学生にも広げること、実施時期は年度初めにすることなどの提案も頂いた。

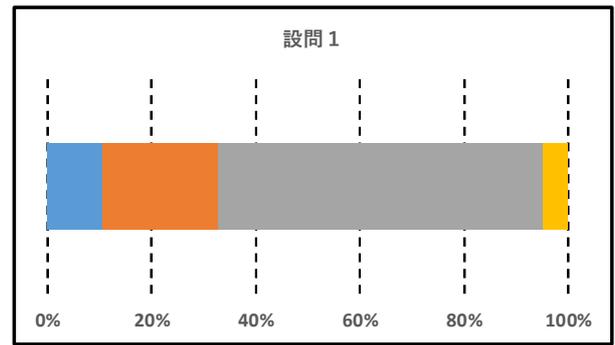
(7) まとめ

- ・内容全般と時間、Webによる開催については、好意的な意見が多く、特に繰り返し視聴できるWeb開催は安全知識の浸透に有効であるため、今後も継続していきたい。
- ・受講者に長いと感じさせないように内容の充実化を図ると共に、講習会全体を通しての開催時間の見直しを検討する必要がある。

設問 1

職種・身分を教えてください

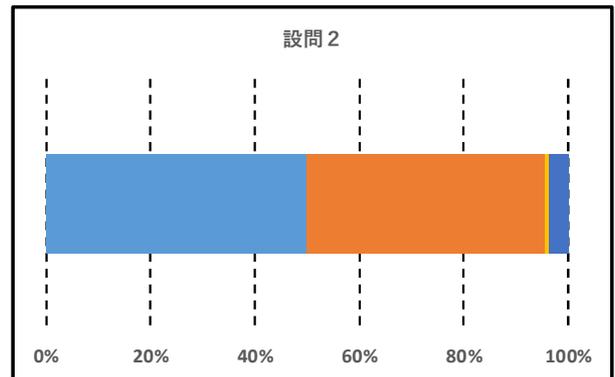
職種・身分	回答数
教員	20
職員	42
学生	118
未回答	9



設問 2

講習の内容全般についてどうでしたか

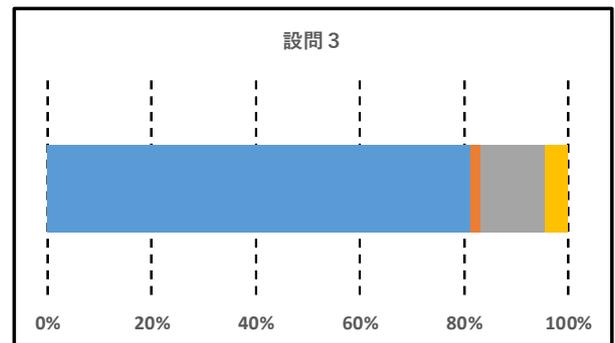
回答内容	回答数
満足	92
どちらかといえば満足	85
どちらかといえば不満	0
不満	1
未回答	7



設問 3

今回もweb上で録画映像による講習会を開催します。会場使用の対面形式と比較し、web開催の印象はどうでしたか？

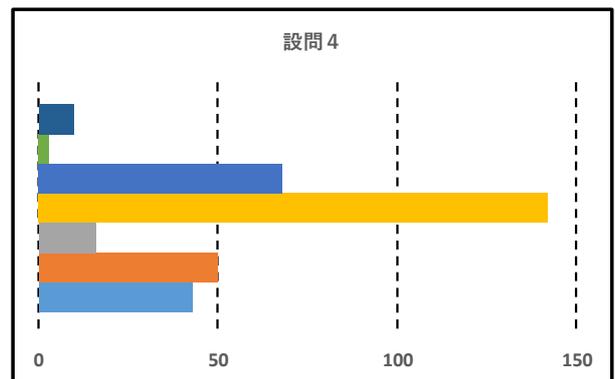
回答内容	回答数
web形式の方がよい	150
会場を設ける形式の方がよい	4
どちらでもよい	23
未回答	8



設問 4

問3の回答を選択した理由を教えてください。(複数選択可)

理由	回答数
感染症のリスクを回避できるため	43
web形式の方が集中できるため	50
対面形式の方が集中できるため	16
期間中いつでも受講できるため	142
期間中何度でも受講できるため	68
その他	3
未回答	10



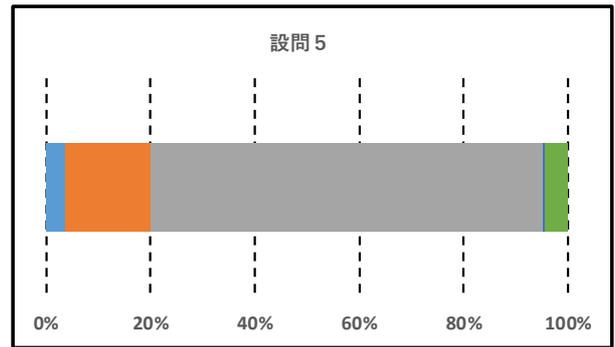
- (その他) タイパが良い、繰り返し視聴できる
- (その他) 倍速で受講できるのでタイムパフォーマンスがよい
- (その他) 倍速などにできるため集中しやすい

グラフ1.「環境安全に関する講習会」アンケート 設問別の回答集計結果 (次ページへ続く)

設問 5

講習「化学物質にかかる安全教育と廃棄薬品の取扱い」について、講習時間の長さはどうでしたか。

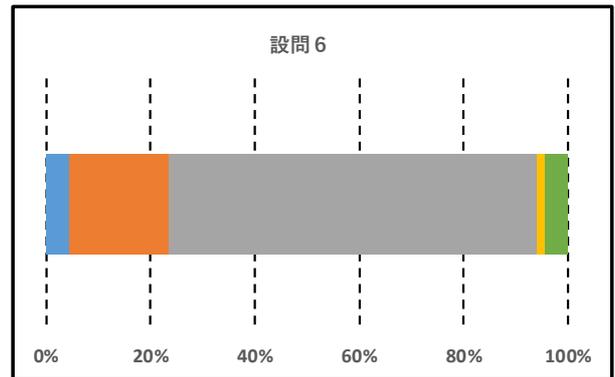
	回答数
長く感じた	7
やや長めに感じた	30
適切だった	138
やや短く感じた	0
短く感じた	1
未回答	8



設問 6

講習「化学物質リスクアセスメント実施ツールCREATE SIMPLEを用いたリスクアセスメント評価方法」について、講習時間の長さはどうでしたか。

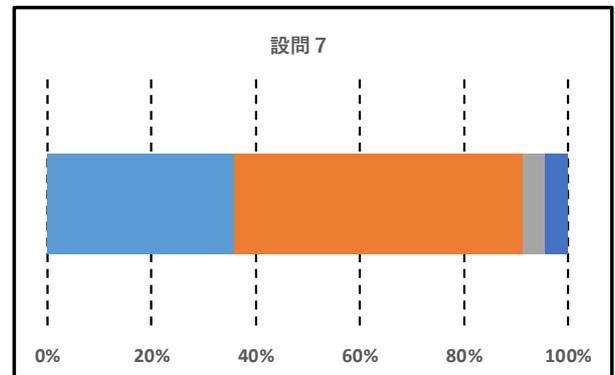
	回答数
長く感じた	8
やや長めに感じた	35
適切だった	130
やや短く感じた	3
短く感じた	0
未回答	8



設問 7

講習会の開催期間（日数）はどうでしたか

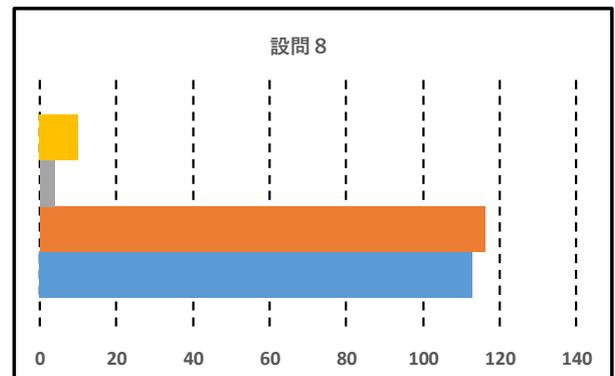
	回答数
長いほうが良い（1か月程度）	66
適切である（2週間）	102
短いほうが良い（1週間）	8
その他（自由記入）	0
未回答	8



設問 8

今後の講習会で取り上げるテーマとして何を希望しますか？（複数選択可）

	回答数
化学物質の安全な取り扱い	113
廃液の取り扱い	116
その他（自由記入）	4
未回答	10



グラフ1.「環境安全に関する講習会」アンケート 設問別の回答集計結果

2. 地域貢献活動(「令和5年度「環境と安全のための講演会」の開催)

市民・学生・教職員を対象に、「身近な場所から考える環境問題」をテーマとして開催。

(1) 日 時: 令和5年12月20日(水) 14:00～16:15

(2) 開催形式: オンライン会議ツール ZOOM による WEB 開催

(3) 対 象: 市民、学生及び教職員

(4) 演 題

NO	タイトル	講師
1	余剰電力の地層貯蔵に関する研究(60分)	秋田大学国際資源学研究所 資源開発環境学専攻 教授 今井 忠男
2	水電解と燃料電池の電極触媒(60分)	秋田大学理工学研究科 物質科学専攻 材料理工学コース 准教授 高橋 弘樹

(5) 受講状況

参加者は64名(学外9名、学内55名)

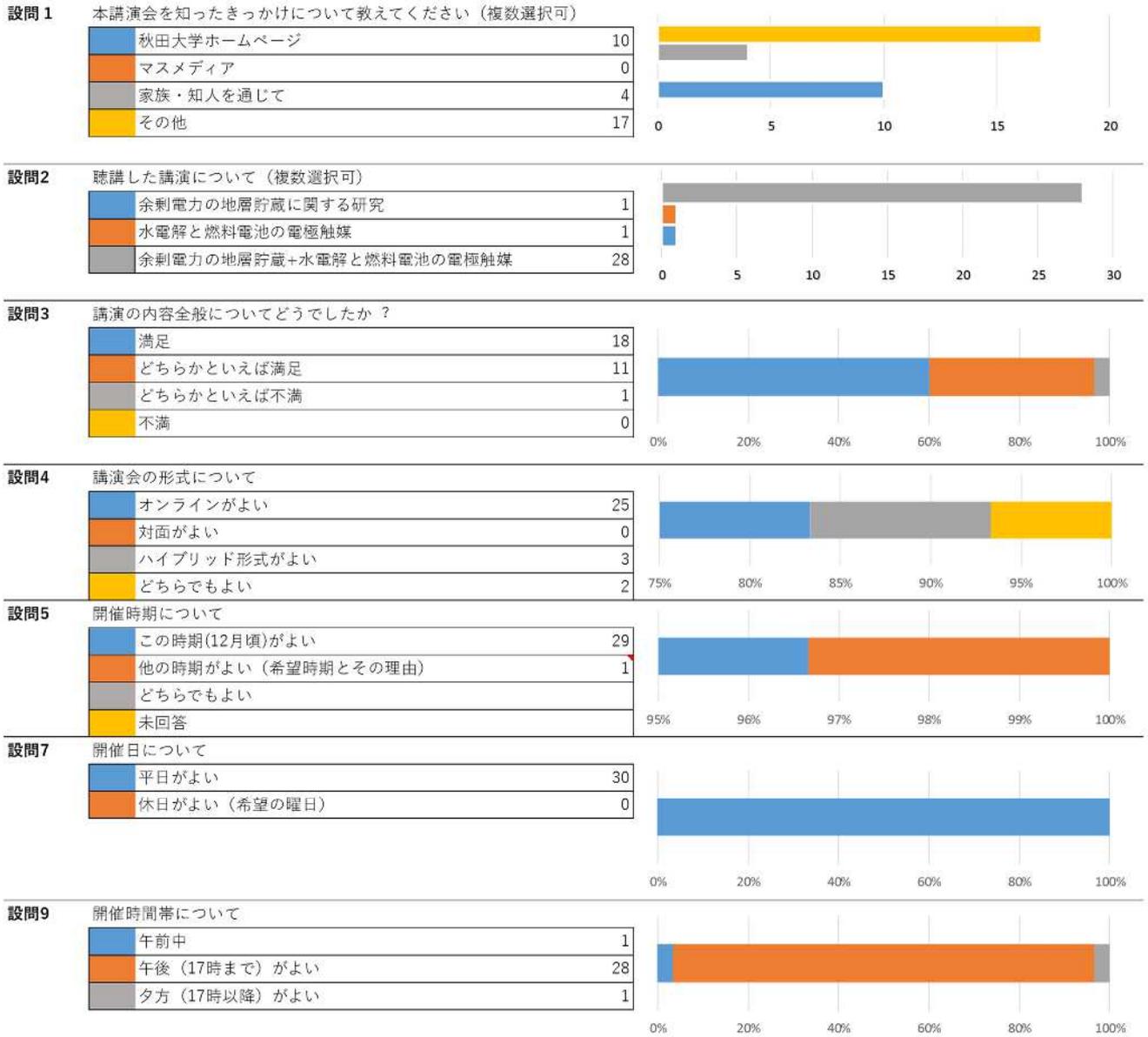
(6) アンケート結果

アンケートについて30名から回答があり、本講演会に対する意見を以下に整理した。各設問に対する回答の集計結果は次ページ グラフ2を参照。

- ・オンライン開催の結果、学外からの参加が一定数あった。
- ・講演内容全般に対しては高い評価であった。
- ・オンラインのみでの開催ではなく、対面で同時に実施するハイブリッド形式を要望する意見もあった。
- ・平日の午後開催には賛成数が多かった。

(7) まとめ

- ・市民及び学内からの参加をより促すため、広報の方法を工夫したい。
- ・Zoom によるオンライン開催は受講者から高い評価を頂いており、また受講場所の制約がなく広範に市民参加を募ることができるため今後も継続していきたい。
- ・平日の午後開催は継続していきたい。また、開催時期については繁忙期を避けるよう配慮する。



【ご意見・ご感想・お気づきの点等】

- ・差し支えなければ、オンデマンド方式としていただき、自由な時間帯に受講出来るようにしていただきたい。
- ・鉱山学部の古い卒業生です。地層貯蔵に興味があり、聴講させて頂きました。また、門外漢の分野の講演も聴講し、最新の研究の一端に触れることが出来ました。
- ・研究よりなのか環境安全確保(環境 or 衛生管理)の講演なのか分かり辛かった。研究の進捗の報告は必要ないと思うが、聴講者は期待を抱くと思うので、他研究機関の先行研究で圧縮空気の貯蔵が上手くいった例または失敗に終わった例を出してはどうか

グラフ2.「環境安全に関する講演会」アンケート 設問別の回答集計結果

3. 廃液の回収と処理

廃液回収と処理の状況を表 1 に示す。なお、当年度の廃液処理は全て外部の業者に委託しており、廃液処理水の外部放流はない。

表1. 廃液回収と処理の状況

(単位:L)

内訳		令和 5 年度 ^{※1}
前年度繰越廃液量	無機廃液	1,725
	有機廃液	0
	計	1,205
回収廃液量	無機廃液	14,520
	有機廃液	12,365
	計	26,884
注水量	設備点検用	0
	中和槽・放流槽洗浄用	0
	計	0
廃液処理量	無機廃液	16,235
	有機廃液	12,365
	計	28,599
排水量		0
次年度繰越廃液量	無機廃液	10
	有機廃液	0
	計	10

(※1) 令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日の期間での回収と処理の状況